



特設ページは「[ゴルゴ 13 海外安全対策マニュアル](#)」で検索！
 興味を持った方は「[海外安全ホームページ](#)」で検索！
 海外安全アプリは App Store または Google Play でダウンロード可能



©さいとう・たかを

ゴルゴ13が教える 海外安全対策⑦

オフィスも狙われる！ ——「三つの防衛線」で対策しよう



海外での長期滞在時、多くの人がオフィスで一日の主要な時間を過ごします。そのため、住宅と同様に、オフィスの安全対策にも気を配ることが大切です。

今回の依頼主は、新たな海外支店を置くことになった、総合商社の社長。安全対策のプロであるゴルゴに、オフィスの警備体制の確認を依頼したようです。オフィスをひと通り見回ったゴルゴが下した評価とは……。

「三つの防衛線」を設定し、 周辺の警戒状況も確認する

前号では住宅の「三つの防衛線」を紹介しましたが、オフィスでも同様の対策が重要です。

まず、建物の駐車場やロビーの警備、入館時チェックの状況などを確認します（第一次防衛線）。つぎに、オフィスの扉や窓が外部からの侵入を防ぐ構造になっているかどうかを確認します。屋根や床下からの侵入にも注意が必要です（第二次防衛線）。そして、侵入された場合を想定して避難する部屋も決めておきましょう。避難室には、頑丈な扉や鉄格子つきの窓がある、防御性の強い部屋を選びます。助けを呼ぶための電話（独立回線）を用意しておくといでしょう（第三次防衛線）。

自社だけでなく、周辺のオフィスがどのような安全対策を施しているかを確認し、周辺

のオフィスと「同等以上」の安全対策をとることがポイントです。侵入者は通常、周辺に比べて侵入が容易な建物をターゲットにするからです。周辺のオフィスと比較しながら、自社の安全対策を常に見直していきましょう。

防災と情報管理も 安全対策の一環！

安全対策は、外部からの侵入を阻むことだけにとどまりません。第一に、災害への備えです。特に、現地では建物の耐震性を確認することが必須です。誰が設計・施工したのか、その業者の信頼性は高いのか、などについて可能な限り調査しましょう。

第二に、情報管理です。具体策としては、情報の取り扱い規定を定めて、パソコンやUSBメモリの持ち出しをチェックするなどの体制を整えます。さらに、社員や来客の行動を予知されないように、予定情報の管理を徹底することも危険回避につながります。他にも、ウェブサイトに掲載する社員の情報や、盗聴の危険性にも注意を要します。

安全対策は、「これだけやれば大丈夫！」というものではありません。日常的に関連情報をチェックし、現地の最新情勢に応じた安全対策を施しましょう。